

# Fukuoka University MEDICAL SCIENCE NEWS

No. 73

編集・発行  
福岡大学医学会  
福岡大学医学部内

福岡大学医学会ニュース

## 福岡大学 在職時代の思い出

福岡大学名誉教授 内藤 正俊



福岡大学医学会の会員の皆様のお蔭で平成4年10月1日から今年の3月末日まで24年6ヵ月もの間、最高の壮年時代を過ごさせて頂きました。心から感謝しています。御指導本当に有難うございました。

先代の小児科学教授であられた故満留昭久先生には特に目を掛けて頂きました。平成9年12月から福岡大学病院副院長を兼務され、私を医療安全部門創設のための直属の部下にして頂きました。新規組織立ち上げのための環境作りから軌道に乗せるまで身を持ってお導き頂き、平成10年10月に医療改善委員会と安全管理部が発足致しました。福岡大学病院副院長の後には医学部長を兼務され、平成17年6月に私を外科学問題小委員会委員長に指名して頂きました。“ナンバー科”であった外科学講座の診療担当領域や人事の見直しについて半年間の会議を重ねた上で外科学再編案を答申させて頂き、現在の臓器別の各外科学講座になりました。

平成19年からの福岡大学病院長を2期兼務いたしました。

1期目の最初の指示は福岡大学病院内の“患者様”を“患者さん”に替えることでした。医療サイドは患者と対等なパートナー関係にあると思っています。皆様に申し訳なかったのは院内感染や患者情報流出事件などの不祥事が続いたことですが、2期目に医療安全担当副院長を兼務して頂いた大慈弥裕之教授（現副学長）が医療安全管理部を見違えるほど充実した組織に衣替えなさいました。

平成23年から副学長を兼務し、医学部長のお手伝いとして医学部のカリキュラムを見直したことで教育推進講座の創設に関与できたことが良い思い出になりました。授業時間が他大学医学部並みに増え、教育推進講座による講義内容や学生評価の見直しも行われています。潜在力に満ちた優秀な学生が入学していますので、学力が飛躍的に向上した卒業生が次々と医学・医療、保健、福祉分野の指導者になるだけでなく、ノーベル医学賞の受賞も夢見ています。

# 退任のご挨拶

福岡大学名誉教授 守山 正樹

私は前任地の長崎大学を経て1997年4月に福岡大学に採用され、以来19年にわたり公衆衛生学の教育と研究を担当して参りました。2011年3月、畝博先生の主任教授ご退任に伴って衛生学教室と公衆衛生学教室とが統合されたため、そこからは衛生・公衆衛生学教室を担当し、本年の退任に至りました。医学会会員の皆様に支えられ、なんとか役割を果たすことができましたことを、誠に有り難く感謝致します。

教室主任に加えて様々な学務の経験もさせていただきました。特に思い出深いのは、2005年以来続いている韓国・啓明大学医学部との交流、OSCE（客観的臨床能力試験）導入に伴う模擬患者養成に関連して始まった授業への市民ボランティアの皆様の参加、入学センター委員のときに導入された入試のグループ面接などです。啓明大学との交流や授業への市民参加では、通常の座学とは異なるアクティブな学修を進めることができました。

3月の退任後、4月からは特任教授として日本赤十字九州国際看護大学に勤務しております。同じ大学といっても新入生が4,000人以上いる福岡大学に比べ、新たな職場は単科大学で学部生は全体でほぼ400名、教育の考え方から授業の組み方まで、いろいろな違いがありますが、医療を支えるという点

では共通するものが多いと感じます。近年、医学部では医学教育国際認証や授業の英語化が懸案になっておりますが、新たな職場は大学名に「国際」を冠していることもあり、

学内の国際化をどう進めるか、海外とどう連携するか等が問われております。学内の国際看護実践研究センターのセンター長もお引き受けし、去る6月後半には2週間にわたりベトナムのナムディン看護大学で、研究手法をテーマに集中講義を行う機会を得ました。新設修士課程の初年度ということで、通常のほぼ倍の57名が受講、「朝8時に授業開始、2時間の昼休みをはさんで16時終了」が10日間続きました。高層ビルが立ち並ぶハノイと異なり、ナムディンはのんびりした田舎町という印象でしたが、インターネットなどの情報環境は日本と変わらず、ベトナムと日本という社会状況の違いを超えて、学生たちの問題意識が共通していることに、驚かされました。

最後になりましたが、福岡大学医学会のますますのご発展を祈念し、退任のご挨拶と致します。



## 福岡大学医学会 第74回例会および第39回総会（報告）

■日時：平成28年9月15日（木）17:30～19:10 ■場所：医学部臨床大講堂

### 1. 第74回福岡大学医学会例会 【進行】集会幹事 小玉 正太

- 1) 開会の辞 集会幹事 小玉 正太      2) 会長挨拶 医学部長 朔 啓二郎
- 3) 第18回福岡大学医学会賞受賞論文講演（講演15分 質疑応答含む）
  - ①講演者1…堤 陽子      座長…柳瀬 敏彦  
「Combined Treatment with Exendin-4 and Metformin Attenuates Prostate Cancer Growth」
  - ②講演者2…佐藤 祐邦      座長…八尾 建史  
「Long-term course of Crohn's disease in Japan: Incidence of complications, cumulative rate of initial surgery, and risk factors at diagnosis for initial surgery」
  - ③講演者3…倉原 琳      座長…井上 隆司  
「Intestinal myofibroblast TRPC6 channel may contribute to stenotic fibrosis in Crohn's disease」
- 4) 第18回福岡大学医学会賞金賞論文投票
- 5) 新任教授講演（講演25分、質疑5分）  
講演者…長谷川 傑（消化器外科学） 座長…朔 啓二郎 「直腸癌治療の進歩」

### 2. 第39回福岡大学医学会総会

- 1) 議事      【進行】庶務幹事 鍋島 茂樹  
①報告事項 ②平成27年度会計報告および平成28年度予算案 ③その他
- 2) 第18回福岡大学医学会賞授賞式 【進行】集会幹事 小玉 正太  
①開票結果発表 ②授賞式
- 3) 閉会の辞      集会幹事 小玉 正太



講演された先生方を囲んで  
（左から、長谷川先生、八尾先生、佐藤先生、倉原先生、堤先生、朔医学会会長、井上先生、柳瀬先生、小玉先生、鍋島（茂）先生）

# 新風

平成 28 年 4 月 1 日付で  
本学へ赴任、昇格された方に  
自己紹介をしていただきました。

new phase



衛生・公衆衛生学  
教授  
有馬 久富

2016年4月1日より守山正樹先生の後任として、衛生・公衆衛生学主任教授を拝命いたしました有馬久富と申します。私は、1993年に九州大学医学部を卒業後、第二内科に入局しました。臨床研修をしながら、「治療の根拠となるエビデンスがどのように作られているか」に興味を持つようになり、久山町における疫学研究に従事して、そこで学位を取得しました。2003年からはシドニー大学へ留学し、臨床試験に従事しました。2006年からは九州大学環境医学分野で助教をつとめさせていただきましたが、2009年に再びシドニー大学に呼び戻され、講師として、2011年からは准教授として、国際共同大規模臨床試験に従事しました。2014年からは日本へ戻り、滋賀医科大学アジア疫学研究センターに特任教授として医学部における公衆衛生学教育に従事してまいりました。福岡大学着任後は、公衆衛生学の講義および実習を担当し、Public Health Mindをもって地域医療に貢献することのできる医師の養成を目指しています。研究面では、疫学・臨床研究の専門家として、わが国における疾病のさらなる予防および新たな治療法の確立のために尽力していきたいと思っております。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

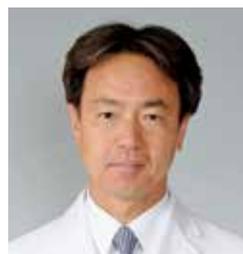


消化器外科学  
教授  
長谷川 傑

平成 28 年 4 月より消化器外科教室の教授を拝命いたしました。私は平成 5 年に京都大学医学部を卒業し、これまでに京都大学附属病院およびその関連施設で消化器癌の外科治療、また癌の発生・進展・治療に関する臨床的・基礎的研究などに携わってまいりました。

私の臨床の専門領域は「大腸癌の外科治療」、特に腹腔鏡手術を中心とした低侵襲治療です。本邦において大腸癌の患者数は年々増加傾向にあります。私はこれまでに大腸癌の低侵襲治療の手術技術の向上および教育に力を入れ、患者さんへの負担のみならず合併症や癌の再発も少ない治療を提供することを目指してまいりました。特に直腸癌の手術は難易度が高く術後合併症や自律神経障害による排尿や性障害などの患者さんの生活の質に影響を与える頻度が高いとされていますが、可能な限り肛門や自律神経機能などを温存できる治療方法を提供できるように努めております。

消化器外科には私の専門とする大腸癌以外にも特色のあるスタッフが揃っています。患者さんとコミュニケーションをとりながら、病気の状態や体力に応じた最善の治療方法を選択し、「喜んでいただける医療」が提供できるよう教室員一同、日々研鑽しておりますので宜しくお願いします。



整形外科学  
教授  
山本 卓明

平成 28 年 4 月 1 日付で、内藤正俊教授の後任として整形外科教授を拝命致しました。私は、平成 2 年に九州大学を卒業し、整形外科学教室（故杉岡洋一教授）に入局、臨床研修後、大学院（第一病理学：居石克夫教授）で、特発性大腿骨頭壊死症の病態研究に従事しました。臨床は、主に股関節外科、肩関節外科、スポーツ整形外科を担当して参りました。

福岡大学整形外科は、故高岸直人初代教授の肩関節、故緒方公介教授の膝関節、内藤正俊教授の股関節と、世界トップレベルの臨床実績を有し、年間手術数も 1400 例を超えております。この実績を確実に継承した上で、これまで私が取り組んで参りました特発性大腿骨頭壊死症の治療、そしてスポーツ整形に積極的に取り組んで参りたいと考えております。

特発性大腿骨頭壊死症は、昭和 50 年に厚生省により難病に指定され、それ以降研究班が組織され、国をあげて病態研究そして治療法開発が進められています。私は、現在、日本医療研究開発機構（AMED）の難病研究班班長として、疫学解析、ゲノム解析そして予防法開発に取り組んでおります。

福岡大学整形外科は、開講 45 年を迎える伝統ある教室です。この伝統を確実に継承し、そして地域医療機関とより一層の信頼関係を構築することで、今後激変する 21 世紀の医療に対応して参る所存です。



心臓血管外科学  
教授  
和田 秀一

平成 28 年 4 月 1 日より心臓血管外科学教授を拝命いたしました。私は、平成 2 年に福岡大学卒業後、国内外の施設で心臓血管外科の研鑽を行いました。平成 17 年からは、大動脈外科手術のトップ施設である神奈川県川崎幸病院に部長として勤務し、平成 23 年から福岡大学に赴任しました。

近年、高齢化社会に伴い心臓血管外科手術は増加し、手術患者さんは顕著にハイリスク化してきています。当教室では大学病院の使命としてハイリスクな患者さんを断らない事、患者さんの負担を軽くする手術（低侵襲化）を心がけています。現在の教室の大動脈手術数は全国でも有数の治療数となっています。また、学会集計では平成 27 年の当院の大動脈手術の死亡率は全国平均の 5 分の 1 の低さになっています。低侵襲手術としてはステントグラフト治療を積極的に導入しています。また、福岡大学ではハートチームとして多職種でのカンファレンスや回診など連携が綿密に行われており、診断、治療、術後のリハビリまで最適な治療を提供できる環境があります。大学病院の責任を自覚し、多くの手術経験に裏打ちされた質の高い手術を行っていきたくと考えております。



耳鼻咽喉科学  
教授  
坂田 俊文

私は1987年に福岡大学医学部を卒業し、そのまま耳鼻咽喉科学教室の扉を叩きました。当時の教室は初代教授の曾田豊二先生が主宰されていました。その後、二代教授の加藤寿彦先生、三代教授の中川尚志先生を経て、私は四代目となります。当教室は創立当初から多忙な臨床業務に加え、聴覚医学と耳科学を研究の中心とし、現在に至っています。

長年在籍していると、教室を自律した生き物のように感じます。教授やスタッフが進むべき方向を指示しても、最終的には各人のベクトルの総和が進行方向と到達距離を決定します。また、社会や教育の環境変化によって、集団の中の自分を自身の尺度で評価し行動する人材が増えました。このような中、患者や社会のニーズに答えられる医師を養成するためには、耳鼻咽喉科のミッションや魅力を明確化、明視化する必要があります。そのために教授として取り組むべき課題は山積しており、成果目標と行動目標で頭は一杯です。数字にはあまりこだわらない方ですが、6年後の2022年には創立50周年の節目が訪れます。今以上に魅力的で活気ある教室を目指し、スタッフと共に努力したいと考えています。今後ともよろしくお願い致します。



看護学科  
教授  
宮城 由美子

このたび、医学部看護学科 小児看護学領域の教員として着任いたしました。

看護師として小児病棟での臨床経験を経て、看護教育、保育士養成に携わってきました。主に行っている研究は、子どもの日常的な疾患 (common disease) の看護に関することを研究テーマとしています。現在小児医療において、特に小児救急問題などは保護者の家庭看護力の低下が指摘されています。そのため日常的な疾患における家庭での看護や、アレルギー疾患を有している子どもの日常生活管理を有効に行うことができる育児支援活動、外来を訪れる発達障がい児等気になる子どもへの医療職者の対応などの研究を行っています。また私の行っている研究活動は、子どもへの健康支援であり、医療職だけでなく、保育の現場、そして家庭、地域との協働で行う

ことに重点をおいています。そのため、地域貢献として幼児・保育者・保護者を対象にした支援活動も実践しています。

今後はこれらの支援活動を学生と共に展開し、学生にとって感動できる看護の実践を共に考え学んでいけるような教育活動ができるためにも一層精進していきたいと考えております。皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



福岡大学  
博多駅クリニック  
教授  
仁位 隆信

平成28年4月1日付で、福岡大学博多駅クリニック診療所長を拝命しました。私は、昭和56年に福岡大学医学部を卒業し当時の第二内科に入局しました。福岡大学病院で2年間の内科研修を受けた後、腎臓グループに入り、浜の町病院に1年間出張しました。その後、米国のクリーブランドクリニックに約2年半留学し、腎血管性高血圧犬を用い塩分摂取が心機能に及ぼす影響を検討しました。留学中のテーマが心機能で、帰国後は、循環器グループに入れて頂きました。沖縄で学会があり、私が留守番を担当していた時、1日で4人もの心筋梗塞患者が担送され、残っていた後輩と二人で、懸命に治療にあたったのは忘れられない思い出です。平成9年に唐津赤十字病院に内科部長として赴任、7年後に同院で循環器内科を独立させました。12年間佐賀県北部の循環器疾患の治療に携わり、平成21年から福岡市中央区の佐田病院に移りました。福岡大学筑紫病院から派遣されていた消化器内科の先生方、また、済生会福岡総合病院の心臓外科・循環器内科の先生方には大変お世話になりました。この度、福岡大学の職員となり新たな気持ちで福岡大学のお役に立てればと思っております。博多駅クリニックは、福岡大学病院、福岡大学筑紫病院、福岡大学の職員の皆様のご協力なしには存在しえません。今までのご支援を深謝しますとともに、今後とも宜しくお願い致します。



医学系研究・  
生命医療倫理部門  
准教授  
今泉 聡

このたび、医学系研究・生命医療倫理部門の准教授を拝命いたしました。ここは、臨床研究を行っていくうえで必要な支援を提供するためにできた新しい部署です。過去には研究成果を求めるあま

医師国家試験結果報告

第110回医師国家試験(2月6~8日実施)に120人が受験し、105人(新卒97人・既卒8人)が合格しました。合格率は87.5%、新卒のみの合格率は90.7%でした。

看護師・保健師国家試験結果報告

第105回看護師国家試験(2月14日実施)に108人(うち既卒1人)が受験し、106人(新卒)が合格しました(合格率98.1%)。また24人(新卒)が第102回保健師国家試験(2月16日実施)を受験し、24人全員合格しています(合格率100%)。

祝 第18回 福岡大学医学会賞

50音順



倉原 琳

*Intestinal myofibroblast TRPC6 channel may contribute to stenotic fibrosis in Crohn's disease*



佐藤 祐邦

*Long-term course of Crohn's disease in Japan: Incidence of complications, cumulative rate of initial surgery, and risk factors at diagnosis for initial surgery*



堤 陽子

*Combined Treatment with Exendin-4 and Metformin Attenuates Prostate Cancer Growth*

り、被験者の安全や健康を損なう臨床研究が数多く行われています。「質の高い研究」を行い普遍化可能な知識を得ることは、将来の患者さんの利益に貢献することへ繋がります。適正な研究を行うために、生命・医療・研究の倫理についての理解、研究計画書の作成・倫理審査、個人情報・実験データの適切な取り扱いなど、様々な事が必要とされるようになってきました。そのような質の高い研究を行う上での助けとなれるよう、努力していきたいと思っております。

私は平成14年に福岡大学医学部を卒業後、循環器内科に入局し2年間の臨床研修後に大学院で学位を取得し、平成20年にはカリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)に留学させて頂きました。帰国後は循環器内科の研鑽を積ませて頂きながら、研究も行ってまいりました。現在の自分があるのは、多くの先生の暖かいご支援があったからだと心より感謝しております。未熟ではありますが、他の方々但至少でも貢献できるよう尽力していく所存です。よろしくごお願い申し上げます。



消化器内科学  
准教授  
枳迦堂 敏

**平**成28年4月より、向坂彰太郎教授のご推挙により、福岡大学消化器内科准教授を拝命いたしました。

私は、1985年に久留米大学を卒業し、久留米大学消化器内科に入局いたしました。大学院時代には、培養細胞を用いた肝類洞内皮細胞の血管新生を研究していました。研究終了後は、久留米大学救命センター、社会保険田川病院、九州医療センターへ出向となりました。田川病院では、血管造影による肝細胞癌治療を中心に、救急、肝胆膵、消化管内視鏡、呼吸器、循環器、糖尿病、脳血管の症例を数多く経験し、今で言う総合診療医(ドクターG)でした。時は移り、専門医時代となると、専門領域以外の診療に当たることは無くなっていきました。九州医療センターでは、エコーガイド下の肝癌治療を専門としていました。久留米大学時代に、向坂教授からご指導を受けていたこともあり、2005年4月より福岡大学での勤務となりました。福大では、ウイルス性肝炎治療を専門として診療、研究を行ってきました。今後は、福岡大学の発展に貢献できるよう尽力していきたいと考えております。また、福大の後輩たちの育成にも力をいれ、消化器疾患を得意とする総合内科専門医を多数輩出したいと考えておりますので、今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくごお願い申し上げます。



産科婦人科学  
准教授  
城田 京子

**宮**本新吾教授の御推挙により、平成28年4月から福岡大学産婦人科の准教授を拝命しました。

私は福岡市の出身で、長崎大学を平成8年に卒業後、現在の教室に入局しました。初代白川光一教授、第2代瓦林達比古教授には臨床の基礎からご指導いただき、卒後6年目からは生化学教室(黒木政秀教授)で研究をし、学位を取得させていただきました。その後、当時から支えてくださる方々と、卵子や精子の研究を続けています。

現在、第3代宮本教授のもと婦人科内分泌疾患、すなわち思春期・更年期のホルモン療法や不妊治療に従事しています。医師になって20年、そのうち14年間大学に在籍し、生殖医学会生殖医療専門医、産科婦人科内視鏡学会技術認定医、東洋医学会漢方専門医といった資格を取得できました。近い将来はじまる(とされる)新専門医制度にむけた準備を医局長として進めるなかで、この経験を活かし、今後われわれの教室で産婦人科専門医を目指す若い先生に、より良い環境を提供するよう努力しています。

今春、福岡大学博多駅クリニックが開業し、週に1度の勤務ですが、私も福岡大学の新たな社会貢献活動の一翼を担える機会を得ました。今後も福岡大学医学部・病院に貢献するよう努めて参りますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



医学教育推進講座  
准教授  
八尋 英二

**平**成28年4月より福岡大学医学部医学教育推進講座の准教授を拝命致しました。今、医療を取り巻く環境は目紛しく変化しています。遺伝子治療・再生医療・臓器移植など医療現場へ向かう医学生が習得する知識は爆発的に増えています。この過酷な状況の中、良医を育てるには座学だけでは困難で医学教育の変化が必要とされているのです。福岡大学医学部でもこのような状況に対応するべく医学教育全般を担当/統括するため開講されたのが我々の講座です。

御存知の通り、大学の役割は臨床・研究そして「教育」であり3本柱の一つである「教育」に主軸を置き、低学年から臨床に触れるEarly Exposureとしてシミュレーター(医学情報センター5階のSkills Lab)や医療面接実習も取り入れています。先進医療や超高齢化社会に卒業後すぐに対応する必要もあるので、生命倫理や医療安全の面でも介入していく所存です。

現在は、主任教授である安元佐和先生(小児科)を筆頭に森原大輔先生(消化器内科)とスーパーバイザーとして出石宗仁先生(循環器内科)を含めた4名の医師と数名の医療技術職員の少数精鋭で福岡大学医学部1年生から6年生までを精一杯サポートして行きます。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。



歯科口腔外科学  
准教授  
近藤 誠二

**私**近藤誠二は平成28年4月から福岡大学医学部歯科口腔外科学講座の准教授を拝命いたしました。平成4年に九州歯科大学を卒業して、すぐに岡山大学歯学部口腔外科学第1講座で研修をスタートしました。臨床の傍ら、研究面では顎骨という硬組織を扱うことが多い特性から、内軟骨性骨化に重要な成長因子である結合組織成長因子CTGF/CCN2の遺伝子発現制御機構の解明というテーマに出会い、現在までライフワークとしています。平成18年に島根大学医学部歯科口腔外科学講座へ移動後、講師を拝命し、県内唯一の大学歯科口腔外科としての地域医療を経験致しました。平成22年に医系総合大学の昭和大学歯学部口腔疾患制御外科学講座へ准教授として移動しました。歯科医師養成の教育を通じて総合的チーム医療参画時

における医科との連携に関する諸問題解決に従事しました。

歯科口腔外科は、歯や顎骨にまつわる先天疾患、炎症、嚢胞、顎変形症による咬合不全、腫瘍性病変の外科的治療に携わる分野です。また、易感染性宿主の口腔常在菌の存在が、各科の治療予後に大きく関連するというエビデンスが示され、周術期口腔機能管理という健康保険名称で多くの先生方と連携させて頂いています。

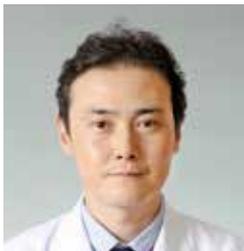
着任後、講座内はもとより、学内の先生方に非常に温かく迎えて頂き、大きなやりがいを感じています。福岡大学医学部の教育、研究および臨床におけるさらなる発展に少しでも貢献できるよう努力したいと思います。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。



呼吸器内科  
准教授  
石井 寛

このたび、渡辺憲太朗教授のご推挙により准教授に昇格いたしました。私は福岡市生まれで、長尾小、友泉中に通っていました。平成7年に長崎大学医学部を卒業後、循環器内科医を志し同大学の第二内科に入局しました。しかし宮崎大学への出向中に現在長崎大学第二内科の教授になられた迎寛先生から呼吸器の道へ引き込まれました。平成14年からカナダ留学、平成18年には縁あって大分大学第二内科に移籍し、呼吸器の臨床と研究に関わってきました。平成25年に渡辺教授の許しを得て福岡大学呼吸器内科に中途入局し、現在に至っています。なお趣味の面では帰福前のサイクルスポーツからお金のかからないジョギングに切り替え、これまでフルマラソンに4回チャレンジしました。

当科はあらゆる呼吸器疾患に対応していますが、同程度の規模を有する他病院の呼吸器内科と比べて、肺癌、間質性肺炎などのびまん性肺疾患が多いことが特徴としてあげられます。これまでの経験を生かし、教室の一員として福岡大学と地域住民の皆様にもお役に立てるよう、微力ながら全力を尽くす所存です。今後ともご指導のほど、宜しくお願い申し上げます。



筑紫病院眼科  
准教授  
大島 裕司

平成28年4月1日付けで、眼科診療部長、准教授として就任いたしました。筑紫病院眼科は、開院以来、向野利寛院長が主宰され多くの地域の患者さんの診療・治療が行われております。また、数多くの眼科医を指導され、医局員は向野教授のもと臨床・研究・教育に携わっています。そのような伝統ある筑紫病院眼科にこの度就任させていただき、大変光栄に思っており、また身の引き締まる気持ちです。

私は、平成5年に長崎大学医学部を卒業し、九州大学眼科学教室(猪俣孟教授)に入局し臨床、研究に従事して参りました。大学院卒業後、平成12年から平成15年まで米国のJohns Hopkins大学Wilmer眼研究所に留学、帰国後は別府医療センター、北九州市立医療センターに勤務し臨床に従事してきました。平成20年から昨年度末まで九州大学眼科に戻り、石橋達朗教授、園田康平教授の下、臨床・研究・教育に努めてきました。専門は網膜硝子体疾患で、特に加齢黄

斑変性をはじめとする眼内血管新生疾患の診断・治療を中心に診療、研究に従事しております。当院赴任以来、筑紫地区の先生方との勉強会や研究会も始めております。地域の先生方との連携を深めるとともに最新の知識や治療を学び、患者さんの見える喜びをいつまでも維持できるよう努力していきたいと思っております。今後とも地域に根ざした大学病院としての役割を果たせるよう、頑張っ参りますのでよろしくお願ひいたします。



循環器内科  
講師  
北島 研

福岡大学医学部が開設された昭和47年に生まれ、福岡市で育ち、平成10年福岡大学を卒業後、福岡大学第2内科(現在の心臓・血管内科学教室)に入局しました。平成13年より米国ペンシルベニア大学でHDLコレステロールを遺伝子治療で増加させる脂質異常症の研究を行い、平成18年に福岡大学で博士(医学)を取得しました。平成19年から福岡大学病院総合診療部で内科診断学を学び、平成21年からは福岡大学筑紫病院循環器内科にて循環器疾患の検査・治療に携わりました。平成24年からは糸島医師会病院で高齢者を中心に地域医療を学びました。平成27年10月より福岡大学病院循環器内科助教、平成28年4月より現職の講師を拝命しました。現在、福岡大学病院新館地下のメディカルフィットネスセンター、及びハートセンター病棟での心臓リハビリテーション業務の他、兼務しております総合診療部(ER)での2次救急外来対応に従事しております。研究の面では、脂質異常症、特に家族性高コレステロール血症の治療のため、細胞や動物を用いて新たな治療方法を確立することが目標です。福岡大学の職員の名に恥じぬよう、精一杯努力していきたいと思ひます。



リハビリテーション部  
講師  
鎌田 聡

平成28年4月より福岡大学病院リハビリテーション部の講師を拝命いたしました。私は平成15年旭川医科大学卒業後、同年福岡大学整形外科へ入局させていただきました。平成23年内藤正俊名誉教授のご指導のもと学位取得後、同年よりリハビリテーション部に配属となりました。

当院の特徴として症例数の多さと多様性にあるかと思ひます。配属後は、整形外科では接することの少ない疾患症例に関わることもでき、貴重な経験を積ませていただきました。臨床では各科や他院との連携、患者のADL低下予防・廃用予防に努めていきたいと思ひます。研究では前述の当院の特徴を生かし、リハビリテーションの視点から様々な疾患にアプローチできればと思ひます。当院にはロボットスーツHALなどの最先端機器もあります。これらを活用していきたいと考えています。教育では今までと同様に学生に廃用予防の重要性について認識を高めてもらうように努めていきたいと思ひます。

今後とも福岡大学病院の発展に微力ながら尽くしていく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



リハビリテーション部  
講師  
藤見 幹太

このたび、朔啓二郎教授、塩田悦仁教授の御推挙により福岡大学病院リハビリテーション部の講師を拝命いたしました。私は平成7年に福岡大学医学部を卒業し福岡大学医学部第2内科に入局し、大学院を卒業後は循環器臨床医として心臓カテーテルを中心とした急性期医療に携わっていました。H20年に心臓リハビリテーションの立ち上げのために大学病院に戻りました。心臓リハビリテーションは心疾患患者の慢性期治療を充実するためのプログラムで、心疾患患者の予後改善効果があることが証明されています。新診療棟の完成とともにメディカルフィットネスセンター、ハートセンター病棟の心臓リハビリ室で入院だけでなく外来も含めた心臓リハビリテーション診療を開始しました。現在は看護師、理学療法士、健康運動指導士、管理栄養士、臨床心理士といった充実した多職種協働チームとなり昨年より日本心臓リハビリテーション学会認定研修施設にもなりました。この春よりリハビリテーション部に配属となり、循環器領域だけでなく多数の診療科の垣根を越えて慢性疾患に対するリハビリテーションを充実できるように精進していきたいと思っております。今後とも指導をよろしくお願いいたします。



脳神経外科  
講師  
竹本 光一郎

この度、井上亨教授の御推挙により福岡大学病院脳神経外科の講師を拝命致しました。私は平成15年の福大卒で、先代の福岡武雄教授の時に当教室に入局致しました。研修医2年目より2年間、当時、井上先生が医長であった九州医療センターで脳血管内治療(カテーテル治療)を中心に脳血管障害を学びました。その後大学に戻り修練医として4年間勉強し、この間、臨床の傍ら「頸動脈狭窄症の術前評価に行うMRブラークイメーシング」についての研究を講師(現・高知大学脳神経外科教授)の上羽哲也先生に御指導いただき、昨年学位を取得しました。卒業後9年目より京都大学に国内留学し、翌年には脳血管内治療で世界的に有名なカリフォルニア大学ロサンゼルス校へ留学いたしました。直近の3年間は長崎県の佐世保中央病院にて地域医療に従事し、「脳血管内治療の立ち上げ」という貴重な経験をさせていただきました。私の専門領域は前述のごとく脳血管内治療です。この分野は90年代後半より保険治療となり、この20年間で目覚ましい進歩を遂げ、今や脳神経外科領域のmajor treatment optionとなりました。当院は九州最多の治療症例数を誇るhigh volume centerであり、東登志夫診療教授のもと日々困難な症例を数多く経験しております。

現在、当教室の医局員は総勢50名以上となり、井上教授が就任された8年前と比べ2倍近くの大所帯になりました。臨床・研究・教育にバランスよく取り組み、中堅として医局を支えていく事が目標です。また教室内のみならず、福大の卒業生として、学生教育や他科との連携強化にも尽力したいと思っております。今後とも皆様方のご指導ご鞭撻の程何卒宜しくお願い致します。



総合周産期  
母子医療センター  
講師  
村田 将春

皆様はじめまして。今年度から当院総合周産期母子医療センターで勤務させていただいております。私は平成14年に九州大学医学部を卒業し九州大学産婦人科教室に入局しました。専門分野は周産期領域で、九州大学病院や大阪府立母子保健総合医療センターなどで臨床や研究に従事してまいりました。

少子化の影響で全国的には産婦人科医師1人あたりの出生数はここ20年で15%減少していますが、福岡県は3%の減少にとどまっています。特に福岡都市圏(福岡市、糸島市、筑紫地域、粕屋地域、宗像地域)の出生数は2万5千件/年に増加しており、当センターの担う役割は益々大きくなります。

また当院は臨床教育、臨床研究の場でもあります。周産期医療の知識や技術に精通した人材を一人でも多く育てること、そして診療の質を向上させるような臨床研究を1つでも多く遂行することが私たちには期待されています。これらのことは強い使命感と高い倫理観なくしては決して為し得ません。

そうした責任あるチームの一員に加わられたことを光栄に思っていますとともに、福岡大学病院の皆様は快く迎え入れて下さったことを心から感謝いたします。

どうぞよろしくお願いいたします。



呼吸器・乳腺内分泌・  
小児外科  
講師  
早稲田 龍一

略歴:

H13年 金沢大学 医学部 医学科卒業  
同年、金沢大学 心肺・総合外科(現 先進・総合外科)に入局  
関連施設での修練の後、H23年～ 金沢大学 心肺・総合外科 助教  
H26年～ オーストラリア、ウィーン医科大学 胸部外科学講座 クリニカルフェローとして臨床留学

皆様、はじめまして。新しく呼吸器外科として赴任致しました早稲田龍一と申します。私は金沢の地で育ち、外科医としても金沢で修練を開始し、経験を積んで参りました。ここ福岡、九州とは業務だけでなく生活においても、いろいろな違いがあり、現在、戸惑いつつもそれを楽しんでおります。

略歴にもあります通り、この2年、欧州のウィーンに臨床留学をし、肺移植医療に従事・様々なことを学んで参りました。この度は、本邦においても肺移植医療に関わるべく、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科の肺移植チームの一員として当院に勤務させて頂くことになりました。もちろん肺移植だけでなく、一般胸部外科医として何事にも積極的に取り組んでいきたいと思っております。

臨床・研究、いずれに関しても何かありましたらお気軽にお声かけ頂けると幸いです。

何卒宜しくお願い致します。

教室だよ  
Letter from a classroom



## 医学教育推進講座



医学教育推進講座は、2014年10月1日に福岡大学の医学教育を充実させるために新しく開設されました。この講座の使命は、社会に貢献できる良き臨床医を育てるために、医学部入学後の初年次教育から臨床実習まで6年間の一貫した医学教育の充実です。現在のスタッフは、安元佐和主任教授（小児科）、出石宗仁教授（循環器内科）、八尋英二准教授（循環器内科）、森原大輔講師（消化器内科）の専任医師4名と教育技術職員5名、SPコーディネーター2名です。いずれの医師も豊富な臨床経験とリサーチマインドを持ち、医学教育に熱心な臨床医です。

講義では、M1の医学概論（プロフェッショナルリズム、コミュニケーション）とBSL・看護実習に始まり、M2の臨床医学入門、M3の地域医療体験実習、M4の各科講義、症候・病態学などを担当し、TBL、プレゼンテーションなどを多く取り入れ、M1では入学3ヶ月目に模擬患者さんとの医療面接を実施しています。また、M4のCBTとOSCEの共用試験、M6のpost clinical clerkship OSCEを計画、立案し、模擬患者の養成も行っています。

また、医学教育の分野別認証受審に向けて、医学教育検討委員会を立ち上げ、これまでのカリキュラムや講義内容、学生評価の見直しを行っています。

魅力ある私大医学部として基礎医学から臨床医学の各講座との連携をはかり、知識だけでなく、臨床実践能力に必要な技能と他者の役に立つ良き臨床医を育て社会に出たいと思っています。福岡大学医学教育の扇の要として今後発展させていきたいと思っています。

## FUMEC Credo

私達は、福岡大学医学生がそれぞれの夢を叶え、社会に貢献できる医師に成長するように勇気づけます。  
多様性を尊重し、チームワークで困難な問題を解決し、医学教育者として成長し続けます。  
福岡大学医学部の学生、教職員のために医学教育を充実させ、魅力ある医学部へのさらなる発展に寄与します。

ホームページアドレス <http://www.fumec.jp>



## 長い間ありがとうございました

平成28年3月1日～平成28年9月30日までに退職された方

- |                             |                          |
|-----------------------------|--------------------------|
| ■ 畝 博 教授 (総合医学研究センター)       | ■ 武野 慎祐 講師 (消化器外科)       |
| ■ 内藤 正俊 教授 (整形外科)           | ■ 野元 諭 講師 (放射線部)         |
| ■ 守山 正樹 教授 (衛生・公衆衛生学)       | ■ 橋本 竜哉 講師 (消化器外科)       |
| ■ 青柳 邦彦 准教授 (消化器内科学)        | ■ 山野 貴史 講師 (筑紫病院耳鼻いんこう科) |
| ■ 谷原 真一 准教授 (衛生・公衆衛生学)      | 以上、3月31日付け               |
| ■ 河内しのぶ 准教授 (看護学科)          |                          |
| ■ 早田 哲郎 准教授 (消化器内科)         | ■ 佐々由季生 講師 (筑紫病院眼科)      |
| ■ 吉里 俊幸 准教授 (総合周産期母子医療センター) | 以上、6月30日付け               |
| ■ 城島 宏 准教授 (筑紫病院整形外科)       |                          |
| ■ 波部 重久 講師 (微生物・免疫学)        |                          |
| ■ 内野 順治 講師 (呼吸器内科)          |                          |

## 学位取得

次の方は、平成28年3月22日付けで  
福岡大学より博士(医学)を授与されました。

### 課程修了による学位取得者

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| ● 松本順太郎 (病態構造系)   | ● 倉員 正光 (先端医療科学系) |
| ● 福田 宏幸 (病態構造系)   | ● 吉村 芳修 (先端医療科学系) |
| ● 村上 健 (病態機能系)    | ● 堤 陽子 (先端医療科学系)  |
| ● 三宅 智 (病態機能系)    | ● 徳永 昌樹 (先端医療科学系) |
| ● 渡邊 徳人 (病態機能系)   | ● 矢野祐依子 (先端医療科学系) |
| ● 権藤 公樹 (先端医療科学系) | ● 吉峯 有香 (先端医療科学系) |
| ● 矢野 雅也 (先端医療科学系) |                   |

### 論文提出による学位取得者

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| ● 竹田 悟志 (生体制御系) | ● 坂本 桂子 (病態機能系) |
|-----------------|-----------------|